

日立金属株式会社

2019年度第1四半期決算説明

[目次]

1. 2019年度第1四半期決算
2. 2019年度第1四半期セグメント別業績
3. 資産/負債・純資産
4. 連結キャッシュ・フロー

2019年7月26日

概況

- ・米中通商問題の影響等により中国経済が減速
- ・欧州・アジアを中心にグローバル経済全体に影響拡大

地域別

- [米 国] 全体としては緩やかに回復だが、中国経済減速により、農業に影響が出始めるなど、減速懸念
- [中 国] 米中通商問題の見通し不透明。内需鈍化傾向が顕著
- [日 本] 中国経済減速影響と消費増税により、景気後退局面へ
- [欧州・アジア] 中国経済影響、各国政策の不確実性(Brexit等)により不透明感継続

市場分野別

- [自動車] 中国を中心にグローバルで自動車販売台数が前年同月比10カ月連続減少
- [FA・ロボット] 大幅な需要減少
下期の回復を見込んでいたが、長期化の懸念大
- [スマホ・5G] インフラは5G関連で需要増なるも、スマホ端末販売台数低迷
- [半導体] 一部製品で回復の兆しあり

前年同期比減収減益だがキャッシュ・フローは改善

●製品分野別の販売状況

[自動車]

- ・グローバルの自動車販売台数減の影響により、多くの主要製品の需要が減少
工具鋼、特殊鋼自動車部品(CVTベルト材、ピストンリング材)、北米鋳物事業、
フェライト磁石、電線材料の電装部品等

[FA・ロボット]

- ・需要の落ち込みが大きく、希土類磁石、電線材料で影響大

[スマホ]

- ・端末販売台数が低調となり、希土類磁石、特殊鋼(電子材)に影響

[半導体]

- ・銅系リードフレーム材回復の動きあり、ニッケル系も在庫調整はほぼ終了

●原材料価格下落による減益

- ・全体で21億円の減益要因、主として特殊鋼セグメントで発生

●経営効率およびキャッシュ・フロー改善策実行

- ・フリー・キャッシュ・フロー 前年同期比64億円改善
- ・積極的な仕掛品削減施策を実行(前四半期18/4Q末比 44億円削減)
- ・棚卸資産圧縮による原材料価格変動リスク低減を推進中

●課題事業状況

- ・耐熱鑄造部品：生産効率改善は停滞。ただし、着実に改善が見込める
技術的施策実行により、19/4Qから本格効果刈り取り
- ・アルミホイール：撤退計画に基づいた生産対応実行中
(撤退完了までは赤字継続)
- ・その他不採算事業を中心に構造改革を計画・推進中

●固定費削減

- ・固定費削減他効果刈り取りの前倒し実施
年間目標額24億円(18年度対比)→19/1Q 47億円削減(18/1Q対比)
(減価償却費除くと64億円削減)

1-4. 2019年度第1四半期業績

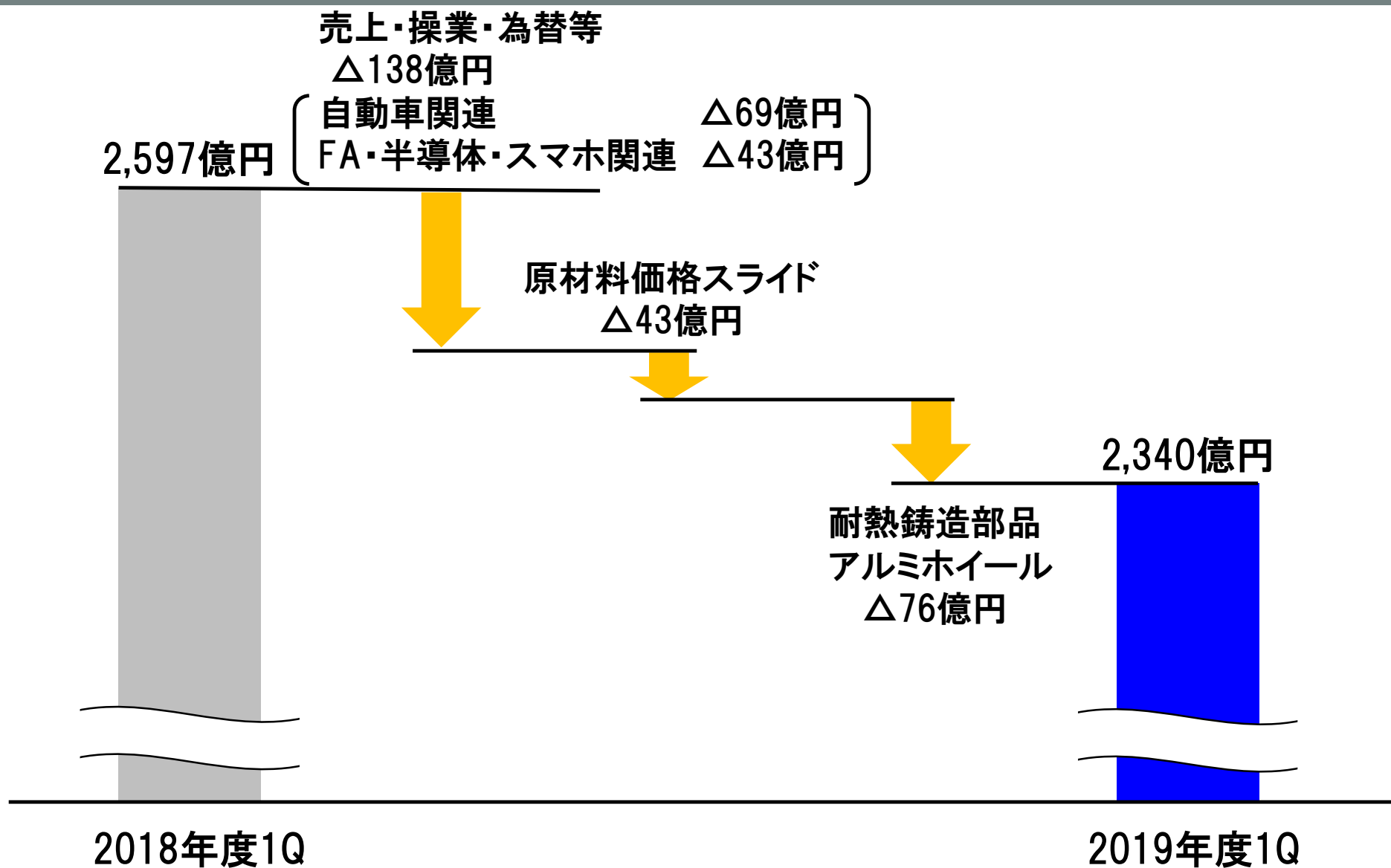
金額単位: 億円 ()は利益率	2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比
売上収益	2,597	2,340	△10%
調整後営業利益*	(6.2%) 160	(2.4%) 55	△105
IFRS営業利益	(7.9%) 206	(2.2%) 52	△154
税引前四半期利益	214	45	△169
親会社株主に帰属する四半期利益	170	32	△138
海外売上比率	57%	55%	△2%

海外売上

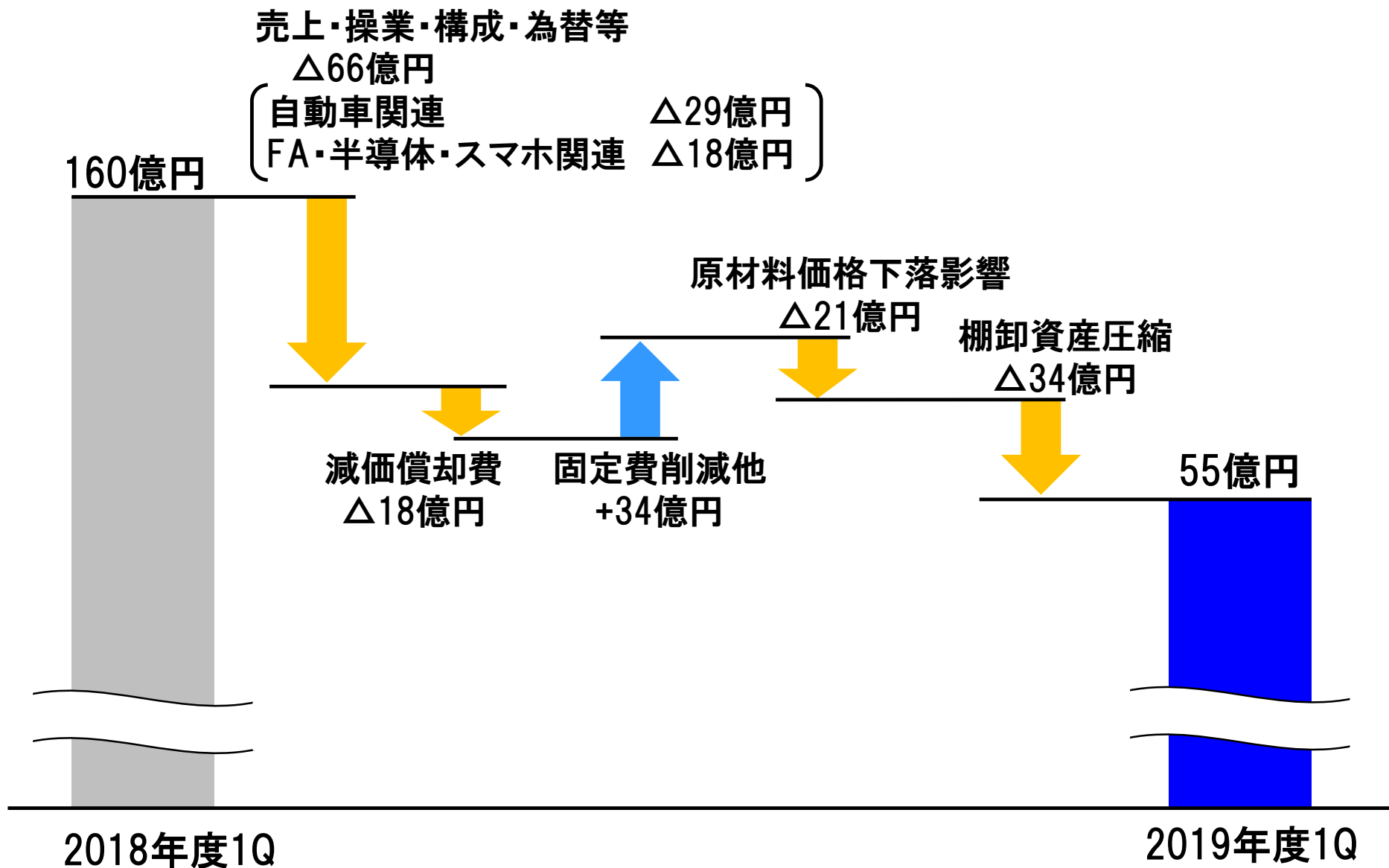
金額単位: 億円		北米	中国	その他 アジア	欧州	その他	合計
2019年度 1Q	売上収益	691	161	270	117	54	1,293
	比率	30%	7%	11%	5%	2%	55%
2018年度 1Q	売上収益	789	204	315	136	26	1,470
	比率	31%	8%	12%	5%	1%	57%

* 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

1-5. 売上収益の増減要因(前年同期比)



1-6. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比)



第2四半期以降の収益改善に向けて

●主要製品の需要見通し: 第2四半期が底となる見込み

【不透明感のある分野】

- ・自動車、FA・ロボット: 需要動向精査中
- ・磁石事業: グローバル生産体制の最適化推進

【好調な製品】

- ・パワーエレクトロニクス: 自動車向け中心に好調継続、5G関連向け拡大期待
- ・ロール、医療向け電線材料: 堅調な需要が継続
- ・リードフレーム材等半導体関連製品: 回復の兆し

●棚卸資産の圧縮継続

- ・18年度増加分は、19/2Q末までに大きく削減(前年同期比1割減見込)

●事業戦略にあわせた固定費の最適化、構造改革の確実な実行

日立金属株式会社

2019年度第1四半期決算説明

[目次]

1. 2019年度第1四半期決算
2. 2019年度第1四半期セグメント別業績
3. 資産/負債・純資産
4. 連結キャッシュ・フロー

2-1. 2019年度第1四半期セグメント別業績

金額単位：億円 ()は利益率		2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比	
金属材料	特殊鋼製品	売上収益	694	637	△8%
		調整後営業利益	(10.7%) 74	(0.8%) 5	△69
		セグメント利益	(10.8%) 75	(1.1%) 7	△68
	素形材製品	売上収益	937	833	△11%
		調整後営業利益	(3.5%) 33	(2.4%) 20	△13
		セグメント利益	(2.7%) 25	(2.0%) 17	△8
	小計 [◎]	売上収益	1,631	1,470	△10%
		調整後営業利益	(6.6%) 107	(1.7%) 25	△82
		セグメント利益	(6.1%) 100	(1.6%) 24	△76
機能部材	磁性材料・ パワーエレクトロニクス	売上収益	363	306	△16%
		調整後営業利益	(2.5%) 9	(△0.7%) △2	△11
		セグメント利益	(18.2%) 66	(△0.7%) △2	△68
	電線材料	売上収益	600	560	△7%
		調整後営業利益	(6.0%) 36	(3.2%) 18	△18
		セグメント利益	(5.2%) 31	(3.4%) 19	△12
	小計 [◎]	売上収益	963	866	△10%
		調整後営業利益	(4.7%) 45	(1.8%) 16	△29
		セグメント利益	(10.1%) 97	(2.0%) 17	△80
その他・調整額	売上収益	3	4	—	
	調整後営業利益	8	14	+6	
	セグメント利益	9	11	+2	
合計	売上収益	2,597	2,340	△10%	
	調整後営業利益	(6.2%) 160	(2.4%) 55	△105	
	IFRS営業利益	(7.9%) 206	(2.2%) 52	△154	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

備考：2019年4月1日付で特殊鋼製品セグメントのうち、軟磁性部材を磁性材料セグメントに移管し、磁性材料セグメントを磁性材料・パワーエレクトロニクスセグメントに名称変更

2018年度実績はセグメント変更後の数値に遡及(遡及後実績は会計監査未実施)

2-2. セグメント別業績: 特殊鋼製品(1)

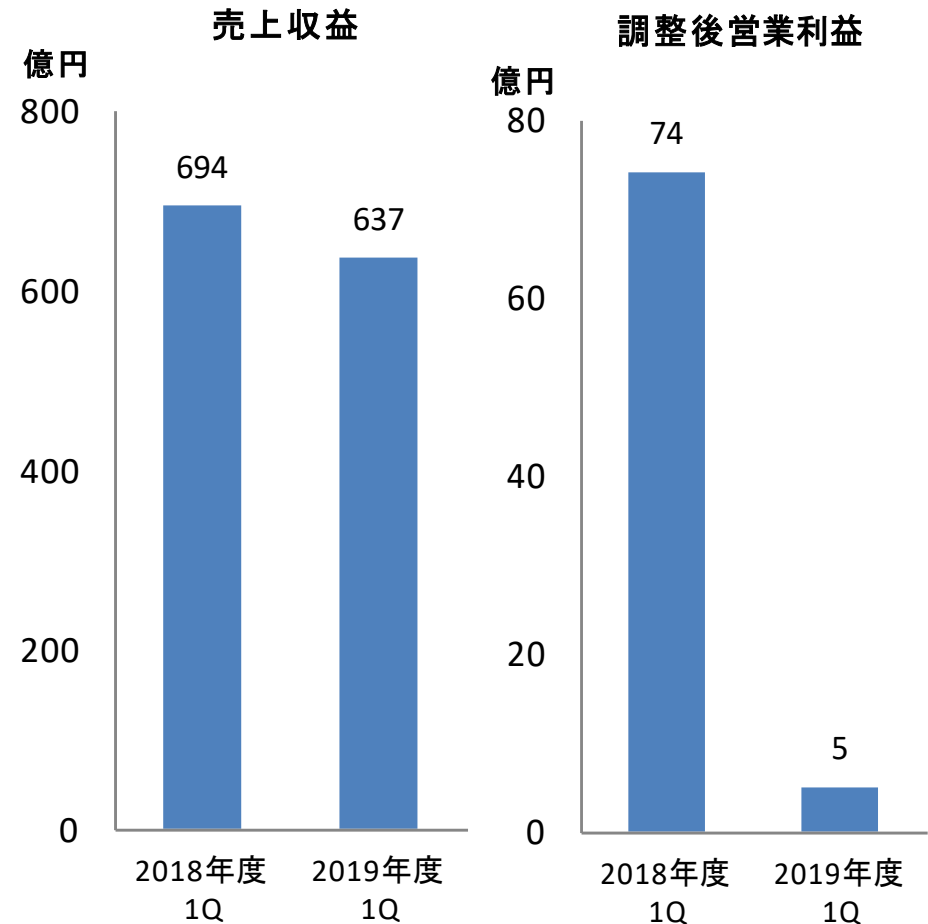
【売上収益】

需要減と原材料価格下落[価格スライド制]により減少

- ・**工具鋼** 中国を中心とした海外市場の需要減や国内での在庫調整に加え、原材料価格下落により減少
- ・**ロール** 各種ロール: 国内、輸出ともに増加
射出成形機用部品: 前年同期並
- ・**産機材** 自動車関連の環境親和製品の需要減や原材料価格下落により、減少
- ・**航空機・エネルギー関連材料** 航空機関連材料の需要増により増加
- ・**電子材** 電池用材料は増加。有機ELパネル関連部材、スマートフォン関連材料、半導体パッケージ材料は需要減により、減少

【調整後営業利益】

主力製品の需要減や生産調整および材料価格下落影響に加え、積極的な仕掛品圧縮により減少



2-3. セグメント別業績：特殊鋼製品(2)

金額単位：億円		2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比
特殊鋼製品	売上収益	694	637	△8%
	工具鋼 [□]			△13%
	ロール [□]			+1%
	産機材 [□]			△11%
	航空機エネルギー [□]			+30%
	電子材 [□]			△13%
	調整後営業利益	74	5	△69
	調整後営業利益率	10.7%	0.8%	△9.9%
	セグメント利益	75	7	△68

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

2-4. セグメント別業績:素形材製品(1)

【売上収益】

原材料価格下落[価格スライド制]、自動車販売台数減、アルミホイール撤退により減少

・自動車用鋳物

鋳鉄製品: 北米で商用車や建設機械向けは増加したが、ライトトラック、乗用車、農機は需要減。原材料価格下落もあり、減少

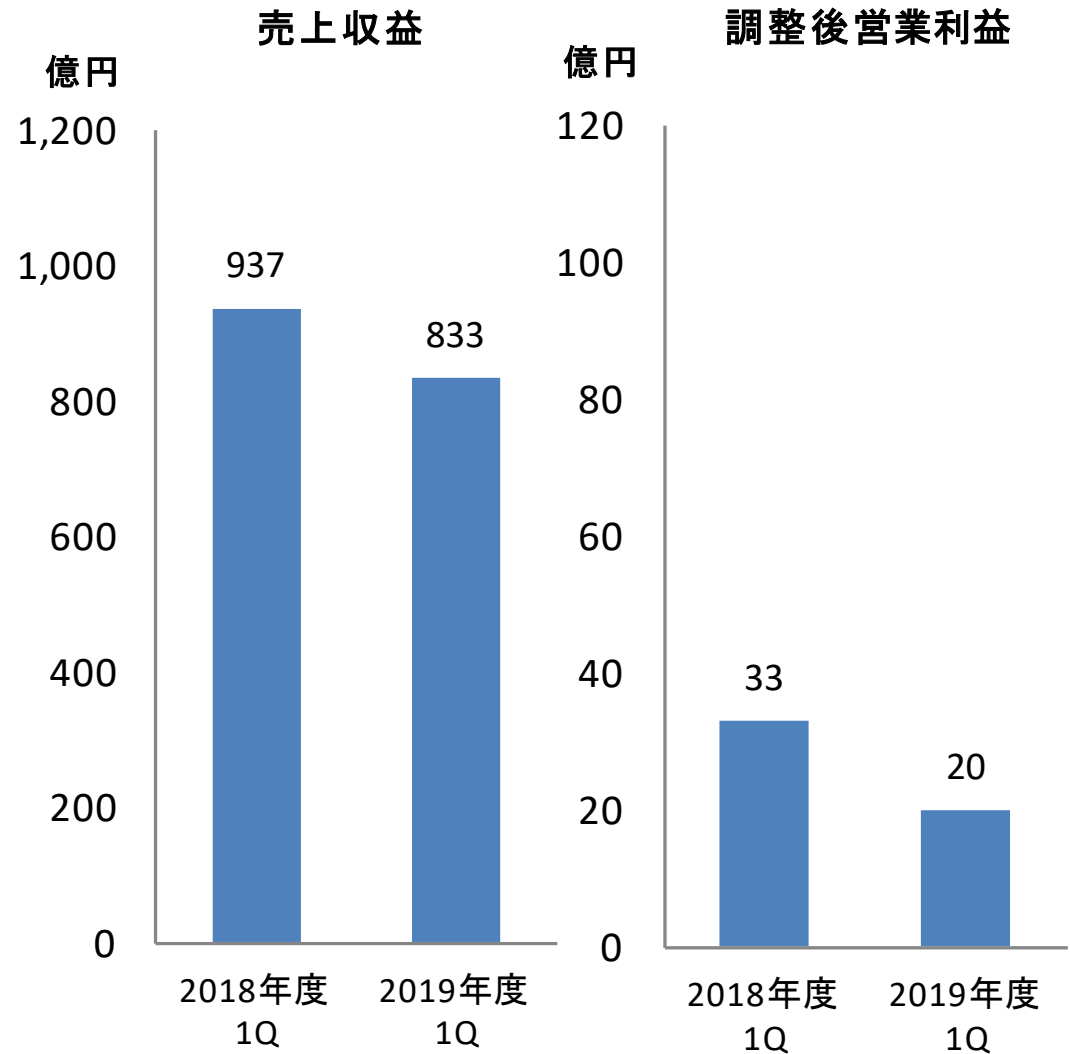
耐熱鋳造部品: 中国・欧州新車販売台数の減少等により、減少

・配管機器

継手類: 米国や国内向けは増加。中東向けなどの輸出が減少し、前年同期並
半導体製造装置用機器: 設備投資案件の延伸により減少

【調整後営業利益】

課題事業の改善はあったが、主力の北米自動車鋳物事業が減少したこと等により減益



2-5. セグメント別業績：素形材製品(2)

金額単位：億円		2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比
素形材製品	売上収益	937	833	△11%
	自動車用鋳物 [◎]	820	722	△12%
	Waupaca社	552	530	△4%
	鋳鉄製品（重量）			△5%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト [®] （重量）			△37%
	配管機器 [◎]	116	111	△4%
	調整後営業利益	33	20	△13
	調整後営業利益率	3.5%	2.4%	△1.1%
	セグメント利益	25	17	△8

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

2-6. セグメント別業績：磁性材料・パワーエレクトロニクス(1)

【売上収益】

磁性材料のFA・ロボット・自動車の需要減により減少

・磁性材料

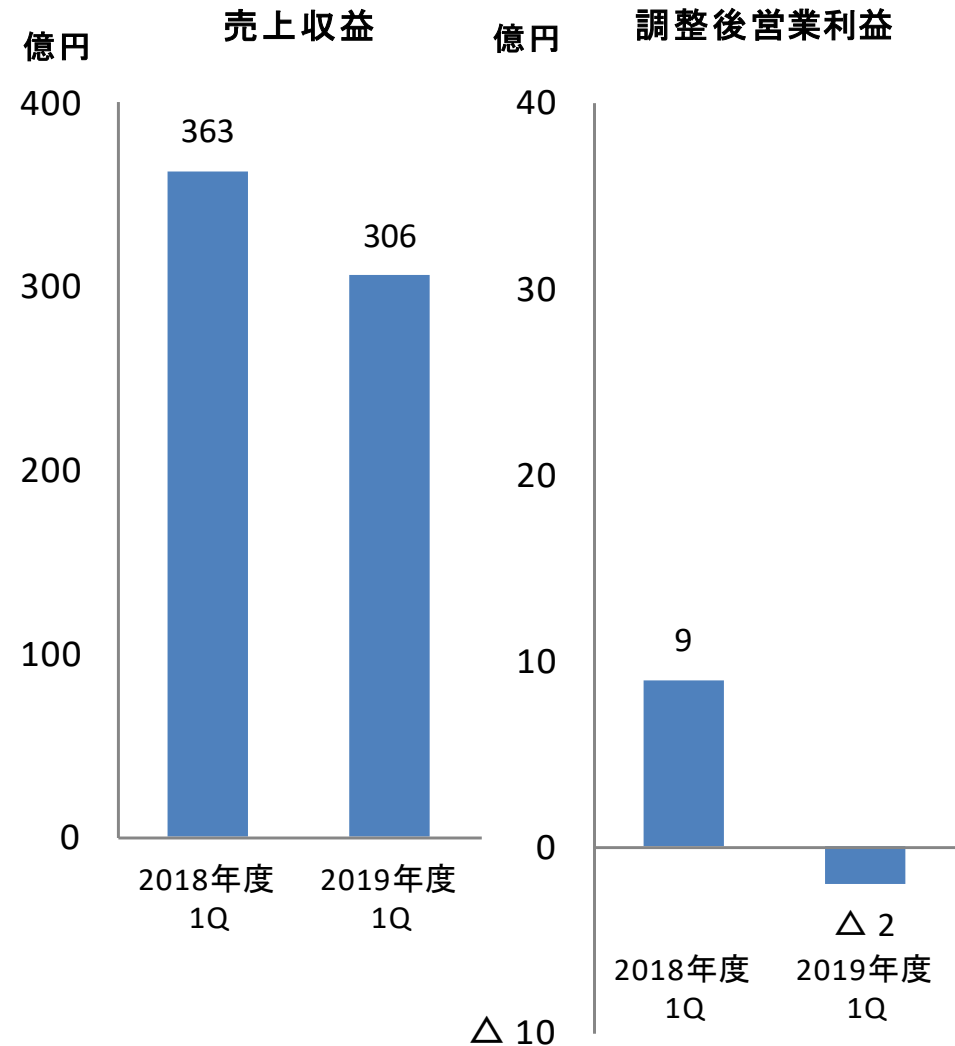
希土類磁石 FA・ロボット需要が大幅減少
自動車用部品も減少
フェライト磁石 自動車用部品が減少

・パワーエレクトロニクス：自動車分野を中心に増加 軟磁性材料およびその応用品

自動車用部品向けが増加。
変圧器用のアモルファス金属材料
や一部の民生機器用途部材が減少
セラミックス製品 自動車用電装部品向けを
中心に増加

【調整後営業利益】

磁性材料の需要減少により減益



2-7. セグメント別業績：磁性材料・パワーエレクトロニクス(2)

金額単位：億円		2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比
磁性材料 ・ パワー エレクトロニクス	売上収益	363	306	△16%
	希土類磁石（重量）			△9%
	フェライト磁石（重量）			△13%
	パワーエレクトロニクス [□]			+2%
	調整後営業利益	9	△ 2	△11
	調整後営業利益率	2.5%	△0.7%	△3.2%
	セグメント利益*	66	△ 2	△68

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

* セグメント利益は、前年同期に三徳の連結子会社化により発生した負ののれん発生益等を計上したため、減益

2-8. セグメント別業績：電線材料(1)

【売上収益】

需要減により減少

・電線

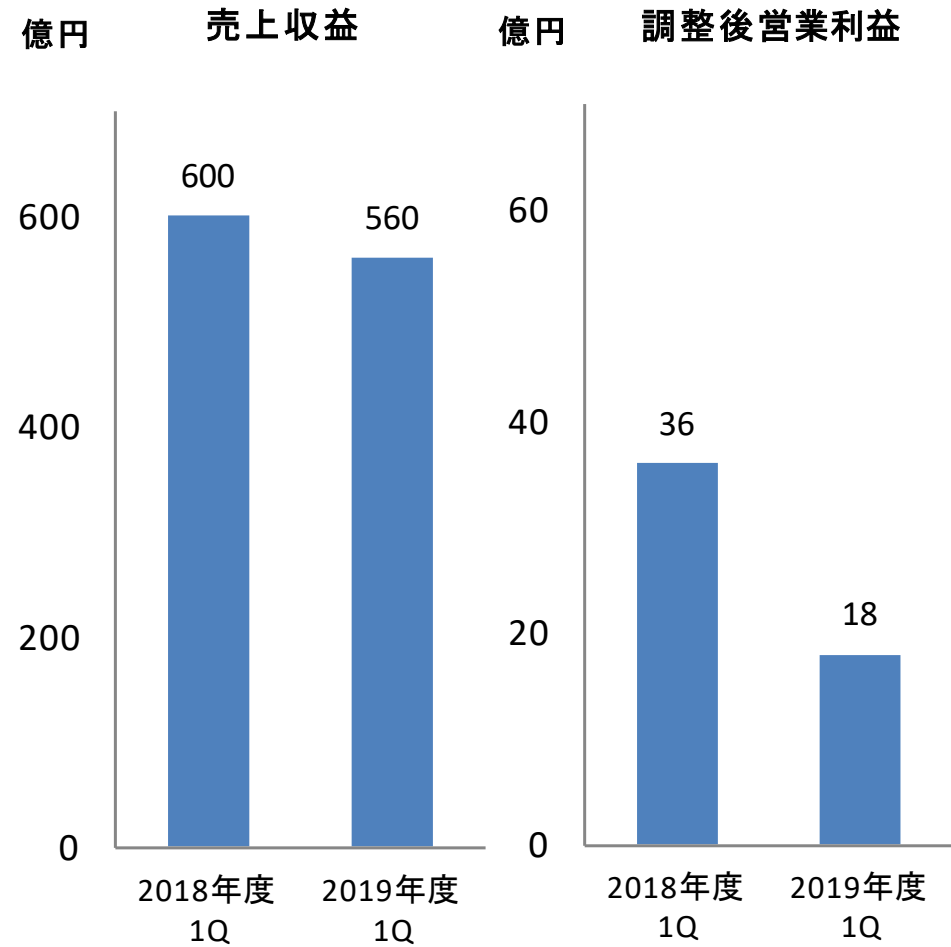
医療向け：プローブケーブル、チューブとも増加
鉄道車両用電線：大型案件の端境期となり減少
巻線：自動車および産業向けとも減少
機器用電線：FA・ロボット向けを中心に減少
電線全体では前年同期比減少

・自動車部品

自動車用電装部品：各種センサやハーネス類増加
ブレーキホース：減少
自動車部品全体としては前年同期比減少

【調整後営業利益】

主力製品の需要減等により、減益



2-9. セグメント別業績：電線材料(2)

金額単位：億円		2018年度 1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2019年度 1Q(4-6月) 1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	前年同期比	
電線材料	売上収益	600	560	△7%	
	注力分野	鉄道□			△21%
		医療□			+10%
		電装部品□			△2%
		FA・ロボット□			△47%
		巻線□			△20%
	調整後営業利益	36	18	△18	
	調整後営業利益率	6.0%	3.2%	△2.8%	
セグメント利益	31	19	△12		

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

注力分野売上割合 2019年度1Q 40%
2018年度1Q 43%

3. 資産/負債・純資産

金額単位: 億円	2018年度末 1\$=111円 1€=125円 1元=16.5円	2019年6月末 1\$=108円 1€=122円 1元=15.7円	増減
資産合計	10,993	10,985	△8
売上債権	1,953	1,967	+14
棚卸資産	2,148	2,111	△37
負債合計	5,041	5,161	+120
有利子負債	2,021	2,390	+369
親会社株主持分	5,880	5,755	△125
非支配持分	72	69	△3
親会社株主持分比率	53.5%	52.4%	△1.1%
D/Eレシオ(倍)	0.34	0.42	+0.08

- ・棚卸資産は、キャッシュ・フロー改善施策により37億円の減少
- ・有利子負債は、短期資金調達に加え、IFRS16号「リース」適用初年度影響(174億円)等により369億円の増加

4. 連結キャッシュ・フロー

金額単位: 億円	2018年度 1Q	2019年度 1Q	前年同期比
営業活動に関するキャッシュ・フロー（営業CF）	108	70	△ 38
投資活動に関するキャッシュ・フロー（投資CF）	△ 294	△ 192	+102
フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	△ 186	△ 122	+64
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	△ 198	△ 131	+67

* コア・フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動に関するキャッシュ・フロー - 資本的支出

キャッシュ・フローは、利益の減少はあったが、運転資金の削減、投資の厳選等の施策実行により、フリー・キャッシュ・フローは前年同期比64億円増加

参考データ(1)

金額単位: 億円	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2018年度 1Q(4-6月)	2019年度 1Q(4-6月)	2019年度 予想
	1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	1\$=111円 1€=128円 1元=16.5円	1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	1\$=110円 1€=123円 1元=16.1円	1\$=110円
売上収益	9,105	9,883	10,234	2,597	2,340	10,000
調整後営業利益*1	660	651	514	160	55	540
調整後営業利益率	7.2%	6.6%	5.0%	6.2%	2.4%	5.4%
その他の収益	141	54	107	68	9	
その他の費用	△ 118	△ 242	△ 197	△ 22	△ 12	
IFRS営業利益	683	463	424	206	52	
EBIT	685	489	453	219	51	400
税引前当期(四半期)利益	660	470	430	214	45	380
親会社株主に帰属する当期(四半期)利益	506	422	314	170	32	285
有利子負債	1,945	1,608	2,021	1,834	2,390	
設備投資額	638	918	954	227	116	620
減価償却費	430	461	509	122	139	600
研究開発費	180	177	186	45	40	185
D/Eレシオ(倍)	0.36	0.29	0.34	0.32	0.42	0.36
基本的1株当たり当期(四半期)利益(円)	118.32	98.72	73.37	39.82	7.58	66.66
1株当たり配当金(円)	26.0	26.0	34.0			34.0
1株当たり親会社株主持分(円)	1,254.9	1,316.1	1,375.2	1,357.4	1,345.9	1,401.2
人 員(人)	28,754	30,390	30,304	31,086	30,354	30,900
ROIC*2	7.0%	5.8%	4.1%			3.5%
ROE*3	9.8%	7.7%	5.5%			4.8%
ROA*4	4.9%	4.0%	2.9%			2.5%
CCC*5(日)	71.1	82.7	90.7			84.2
海外売上比率	56%	56%	56%	57%	55%	56%

*1 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

*2 ROIC(投下資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ (期首期末平均有利子負債 + 期首期末平均親会社株主持分)

*3 ROE(親会社株主持分当期利益率) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期首期末平均親会社株主持分 × 100

*4 ROA(資産合計当期利益率) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期首期末平均資産合計 × 100

*5 CCC(運転資金手持日数) = 運転資金[売上債権+棚卸資産-買入債務] ÷ 1日平均売上収益

主要製品 重量動向

2018年度1Qを100とした場合の指数

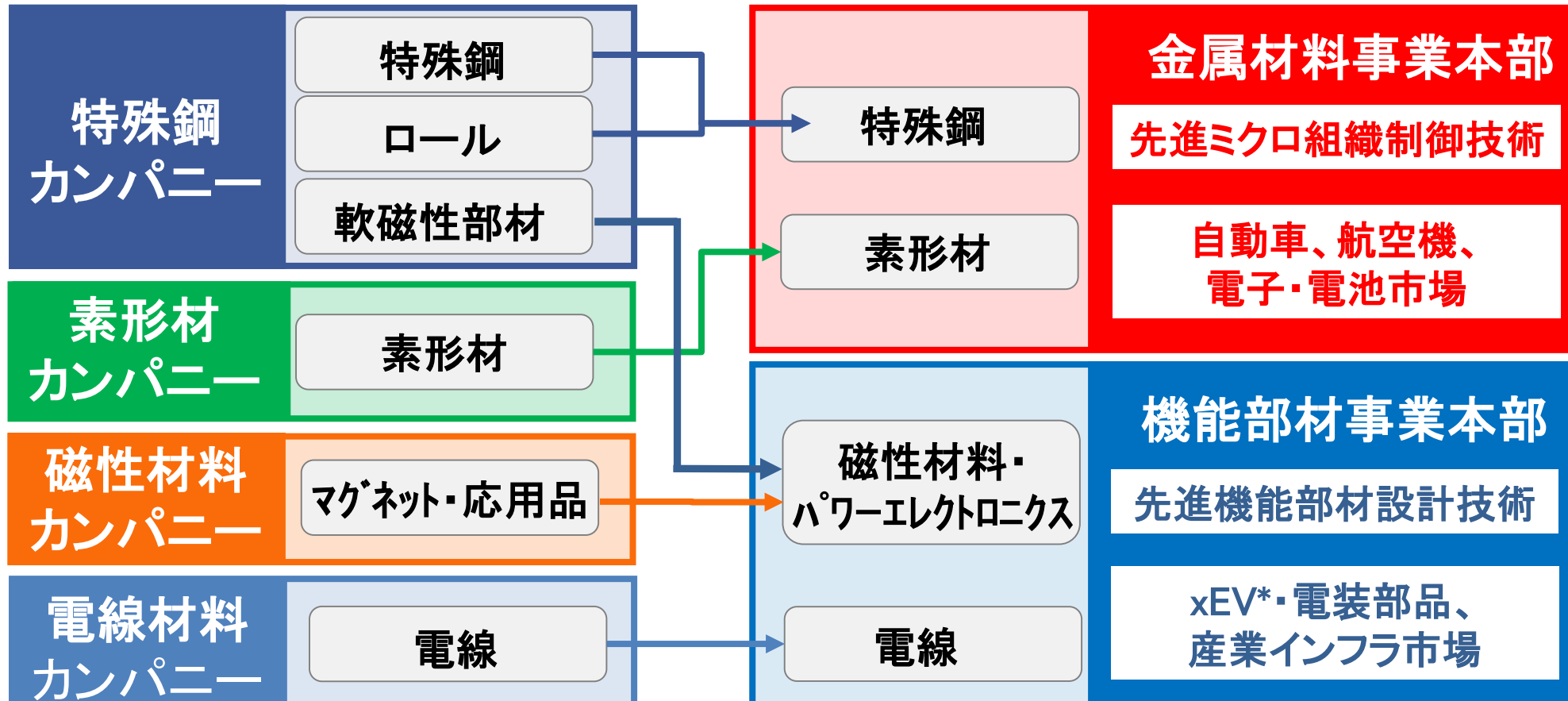
製 品		2017年度				2018年度				19年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
特殊鋼製品	工具鋼	101	94	92	99	100	98	87	87	80
	CVTベルト材	93	104	109	119	100	106	112	100	99
	ピストンリング材	98	91	90	96	100	96	98	93	89
	有機EL関連部材	49	80	85	106	100	87	87	79	95
磁性材料	希土類磁石	101	103	107	100	100	100	93	87	91
素形材製品	鋳鉄製品	99	91	86	97	100	94	91	96	95
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト®	99	97	104	100	100	88	82	71	63

4カンパニー制から2事業本部制へ移行

- ・市場／顧客ニーズ／要素技術の共通性→事業間シナジー強化
- ・リソースの有効活用、戦略機能&ガバナンスの強化

■ 組織再編前

■ 組織再編後



* 電気自動車(EV)、ハイブリッド電気自動車(HEV)、プラグインハイブリッド電気自動車(PHEV)を指しています

(参考) マーケット分野別事業構造(2019年4月～)

■事業ポートフォリオ

事業本部	事業セグメント	産業インフラ	自動車	エレクトロニクス	
金属材料	特殊鋼製品	圧延用ロール	熱間工具鋼		
		タービンケース	CVTベルト材	電子材	
	素形材製品	配管機器	自動車鋳物	リードフレーム材	クラッド材
		管継手	鋳鉄製品	耐熱鋳造部品[ハーキュナイト®]	
機能部材	磁性材料 ・ パワーエレクトロニクス	ネオジウム磁石 [NEOMAX®]	磁性材料	フェライト磁石 [NMF®]	
		アモルファス金属 [Metglas®]	パワーエレクトロニクス	窒化ケイ素基板	
	電線材料	鉄道車両用電線	FA・ロボット用ケーブル	電線	自動車部品
			電動パーキングブレーキ用ハーネス		

(参考) 日立金属の事業構造(2019年4月～)

■ 日立金属の事業構造

事業本部	事業セグメント	事業部門	主要製品
金属材料	特殊鋼製品	工具鋼・ロール	工具鋼、各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
		産機材・航空機エネルギー	自動車関連材料、剃刃材および刃物材、精密鋳造品、航空機・エネルギー関連材料
		電子材	ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料
	素形材製品	自動車鋳物	高級ダクタイル鋳鉄製品[HNM [®]]、輸送機向け鋳鉄製品、排気系耐熱鋳造部品[ハーキュナイト [®]]、アルミニウム部品
		配管機器	設備配管機器 (H [®] 印各種管継手・各種バルブ、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
機能部材	磁性材料 ・ パワーエレクトロニクス	磁性材料	希土類磁石[NEOMAX [®]]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品
		パワーエレクトロニクス	軟磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas [®]]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット [®]]、ソフトフェライト)およびその応用品、セラミックス製品
	電線材料	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、ケーブル加工品、工業用ゴム
		自動車部品	自動車用電装部品、ブレーキホース

当社の業績は事業セグメント区分により開示しております。

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・製品需要に関連する市場の経済状況に係るリスク
- ・原材料価格の変動に係るリスク
- ・資金調達に係るリスク
- ・為替レートの変動に係るリスク
- ・有価証券の価値変動に係るリスク
- ・海外への事業展開に係るリスク
- ・競争優位性及び新技術・新製品の開発・事業化に係るリスク
- ・知的所有権に係るリスク
- ・環境規制等に係るリスク
- ・製品の瑕疵・欠陥に係るリスク
- ・法令・公的規制に係るリスク
- ・地震、その他自然災害等に係るリスク
- ・情報セキュリティに係るリスク
- ・退職給付債務に係るリスク
- ・親会社との関係に係るリスク
- ・M&Aに係るリスク
- ・人材確保に係るリスク